

---

とよなか

Vol.30

令和2年度

---

研究紀要

---

大阪府立豊中支援学校

---

## はじめに

本校教育活動の総括として、研究紀要「とよなか vol. 30」を発行いたします。研究授業や各教科研究会、10年目の教員の実践報告等、今年度の本校の教育実践をまとめています。昨年度末からの新型コロナウイルス感染症に伴う臨時休業と、今年度6月からの学校再開で十分に実践を深めることができなかった状況ではありますが、本校における「新しい生活様式」に則り、『今、できること』を第一に、日々の教育活動を進めて参りました。そのような状況においても児童生徒の「できること」を着実に増やしていくために、毎日の授業における振り返りと積み上げを確実に行い教員一人ひとりが授業を大切にしていこう姿勢を忘れないよう、励ましあってきた成果をご覧いただければ幸いです。

今年度は、大阪府教育庁の学校経営推進費事業「豊中 安全安心 HOT ホット PROJECT」2年目の取り組みです。事業費で購入した“ミライスピーカー”“エアベッド”“短焦点プロジェクター”の授業や学校行事での活用も全校的に浸透し、児童生徒、ならびに教員も自然に機材等を使用することができています。地域との交流活動の多くが中止となり、十分な発信ができない状況ではありますが、校内での実践を積み上げ、3年目の活動につなげていくとともに、地域や他校への情報発信を進め、本校の防災教育をさらに深めていきたいと考えています。

まだまだ改善すべき点多々ある本紀要ですが、少しでも他校の参考となれば幸いです。何卒ご高覧いただき、忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたします。

最後になりましたが、関係機関の皆さまには日ごろより温かなご支援、ご理解を賜り、心より感謝しております。これからも引き続き、ご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

令和3年3月

大阪府立豊中支援学校長 平井 晋也

# 目次

## はじめに

### I 教科等研究会からの実践報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・P3

理科、自立活動、自閉症研究、国語、音楽、図工・美術、保健体育、家庭

### II 各学部のポスター発表

小学部 『「かぞえられる」ようになったよ！

～Aくんの「かず」の学習3年半～』・・・・・・・・・・・・・・・・P20

中学部 『掃除への取り組み

～やらされる掃除から楽しんで自ら取り組む掃除へ～』・・・・・・・・P23

高等部 『家庭科の授業の紹介

～環境教育の分野・座学と被服実習～』・・・・・・・・・・・・・・・・P26

### III 教科等研究会のポスター発表

自立活動 『自立活動の取り組み』・・・・・・・・・・・・・・・・P28

課題 『手作り教材教具の紹介』・・・・・・・・・・・・・・・・P30

算数・数学 『高等部における数学的活動について』・・・・・・・・P31

社会 『高等部2年生職業クラスにおけるピア・サポート活動』・・・・P32

職業 『特別支援学校高等部職業科における職業教育に関する研究

一職業生活能力客観的評価尺度の開発一』・・・・・・・・・・・・P33

家庭 『生活を豊かにする取り組み』・・・・・・・・・・・・・・・・P35

英語 『中学部・高等部 外国語活動の取り組み』・・・・・・・・・・・・P36

豊中安全安心 HOT ホッと PROJECT・・・・・・・・・・・・・・・・P38

### IV 教職員の授業研究（学習指導案）

〈小学部〉算数科：学習指導案・・・・・・・・・・・・・・・・P40

〈中学部〉国語科（ことば）：学習指導案・・・・・・・・・・・・P48

〈高等部〉美術科：学習指導案・・・・・・・・・・・・・・・・P56

### V 豊中支援学校 キャリア教育6観点表・・・・・・・・・・・・P62

## あとがき

## 教科研 理科 シラバス作成に向けての取り組み

高等部：大井信忠

### 1、 テーマ

令和3年度高等部理科シラバス作成に向けての取り組みについて、特に高等部1段階及び2段階の作成についてその手順や経緯を紹介する。

### 2、 テーマ設定の理由

平成31年2月に告示された新学習指導要領に沿って、令和3年度より実施する新しいシラバスの作成が必要となったが、現在行っている学習内容を生かしつつ、新しいシラバスへのスムーズな移行を実現するため、教科研内でも学部をこえて情報交換や意見交換を行った。子どもたちが小中高と成長していく過程で、どのようなことを習得し次にどのようなことを学んでいくべきなのか、シラバス作成の過程で考え取り組んだことを紹介したい。

### 3、 取り組み方

シラバス作成の手順について、まず各学習グループが履修する段階を決める。次にその段階の各学年における内容を振り分ける。そこから様式2を作成し、それに沿って各グループ各学年の様式1を作成するという順序で行った。

### 4、 作成の内容

段階の決定について、現在の高等部1年生が中学部在学時にどの段階を履修していたか、それぞれの学習グループについて教科研内で意見聴収を行った。中学部理社のシラバスを参考にしながら、1グループについては中学部の2段階または1段階を履修していたことを考え、高等部では高等部1段階でシラバスを作成することとした。また2グループでは中学部1段階または小学部3段階を履修していたことから中学部の2段階が考えられたが、中学部2段階は学習内容の違いこそあれ高等部1段階と目標の難易度はあまり変わりがないと判断し、2グループも高等部1段階で作成することとした。また、3・4グループについては中学部課題のシラバスを参考にしながら検討を行った。3グループは小学部生活の2段階または1段階を履修していたことから小学部生活の3段階も考えられたが、3段階の目標が高等部のCグループの生徒にとってはやや難しく感じられたので、中学部1段階の方が内容も豊富でふさわしいと判断し、中学部1段階とした。4グループについては小学部生活の1段階を履修していたことから、一つ段階を進めて小学部生活の2段階で作成することとした。中学部1～4グループと高等部のA～Dグループの各段階の対応は次項に表を示す。

I 教科等研究会からの実践報告

中学部	段階	高等部	段階
1 理社	中2、1段階	A 理科	高1（2）段階
2 理社	中1、小3段階	B 理科	高1段階
3 課題	小2、1段階	C 理科	中1段階
4 課題	小1段階	D 理科	小2段階

ここからの各学年の内容の振り分け以降については、高等部の1段階・2段階及び中学部の1段階について紹介する。

高等部のABグループでは物理、化学、生物、地学の4つの分野で合わせて16の項目について3年間で学習することを目標としていた。新学習指導要領ではA生命、B地球・自然、C物質・エネルギーの3つの分野で、1段階では6つの、2段階では9つの項目を、中学部の1段階では7つの項目を学習することになっている。

高等部

	現行の単元		第1段階	第2段階
物理	光と音 エネルギー 電気と磁気	C 物質・エネルギー	イ電流の働き	工電気の利用 ウてこの規則性
化学	物質と分類 酸とアルカリ 熱と温度 水の分解合成 気体の性質		ア物の溶け方	イ水溶液の性質 ア燃焼の仕組み
生物	生物の観察 植物の生活と種類 動物の生活と種類 人の体 食物と健康	A 生命	ア植物の発芽成長結実  イ動物の誕生	イ植物の養分と水の通り道  ア人の体のつくりと働き ウ生物と環境
地学	地球と宇宙 天気とその変化  大地の変化	B 地球・自然	イ天気の変化 ア流れる水の働きと土地の変化	イ月と太陽  ア土地のつくりと変化

## I 教科等研究会からの実践報告

現在学習している単元と 1 段階、2 段階で学習する項目の対応を表にすると前項のようになる。「光と音」については、中学部の 1 段階で学習することになっており高等部の段階には入っていない。また、「てこの規則性」と「流れる水の働きと土地の変化」については今まで学習していなかった項目であり、新たにシラバスに入れる必要があるということになる。

### 中学部

	現行の単元		第 1 段階	第 2 段階
物 理	光と音 エネルギー 電気と磁気	C 物質・エネルギー	ウ光や音の性質 イ風やゴムの力の働き エ磁石の性質 オ電気の通り道 ア物と重さ	
化 学	物質と分類 酸とアルカリ 熱と温度 水の分解合成 気体の性質			ア水や空気と温度
生 物	生物の観察 植物の生活と種類 動物の生活と種類 人の体 食物と健康	A 生命	ア身の回りの生物	イ季節と生物  ア人の体のつくりと運動
地 学	地球と宇宙 天気とその変化 大地の変化	B 地球・自然	ア太陽と地面の様子	ウ月と星 イ天気の様子  ア雨水の行方と地面の様子

中学部の項目は「C オ電気の通り道」や「A ア身の回りの生物」「B ア太陽と地面の様子」のように高等部の項目の前段階的な内容を取り扱うものもあれば、「C ウ光や音の性質」「C イ風やゴムの力の働き」などのように中学部内で完結してしまうものもあり、それらが混在している。中学部の段階を学習してから高等部の段階に進むのが本来であり、よりよい学習の進め方ではあるが、中学部の 2 段階を履修せずに高等部の段階へ進んでも、学習自体には支障がないように思われる。

各段階の項目を今まで学習していた単元と照らし合わせて、新しい項目を 1 から 3 の学年に振り分けてみた。

I 教科等研究会からの実践報告

1 段階

	前半	後半
1 年生	A ア植物の発芽成長結実	C ア物の溶け方
2 年生		
3 年生	A イ動物の誕生 B イ天気の変化	C イ電流の働き

B ア流れる水の働きと土地の変化

2 段階

	1 学期	2 学期	3 学期
1 年生	A イ植物の養分と水の通り道		C ア燃焼の仕組み
2 年生	B イ月と太陽	C イ水溶液の性質 C 工電気の利用	A ア人の体のつくりと働き B ア土地のつくりと変化
3 年生			A ウ生物と環境

C ウてこの規則性

中学部 1 段階	前半	後半
1 年生	A ア身の回りの生物	C イ風やゴムの力の働き
2 年生	C ウ光や音の性質	C 工磁石の性質
3 年生	B ア太陽と地面の様子	C オ電気の通り道 C ア物と重さ

高等部の 1 段階では項目が 6 つしかないので 2 項目ずつ各学年、前半後半に分けてそれぞれ 1 項目ずつ振り分けた。2 年生に当てはまる項目がないので「B イ天気の変化」を 2 年生の前半に移動させ、新しく入れた「B ア流れる水の働きと土地の変化」を後半に入れた。2 段階では 9 つの項目を 3 つずつ 3 学年に割り振った。「C 工電気の利用」を 1 年生の 2 学期に移動させ、「A ウ生物と環境」を 3 年生の 1 学期に「A ア人の体のつくり」を 2 学期に、新しく入れた「C ウてこの規則性」を 3 学期に入れた。シラバスでは 2 段階も学期ではなく前半後半に分けて学習するようになっている。

ここまでの作業で、各学年で履修する項目が決まったことから、様式 2 の作成については容易に進めることができる。最後に様式 1 の記入についても容易にするため、各項目の具体的な授業内容について書き出し、表にまとめた。

I 教科等研究会からの実践報告

高等部 1 段階

1年	前期	A ア植物の発芽成長結実	植物採集 押し花づくり 標本づくり 花の観察（つつじ） 花の栽培 どんぐりの観察（秋） ◎受粉 ◎大変身 ◎植物と生活→紙すき
	後期	C ア物の溶け方	五感による見分け方 金属の分類 塩水と砂糖水（均質） 水溶液の重さ 飽和と温度 塩化アンモニウムの析出 水の電気分解・合成
2年	前期	B イ天気の変化	天気の話（梅雨） 天気予報 天気図（台風）
	後期	B ア流れる水の働きと土地の変化	川の働き 川の始まりと終わり 増水と水害
3年	前期	A イ動物の誕生	動物の分類 卵生と胎生 ◎魚のプロポーズ、産卵、子育て ヤゴ救出大作戦 ちりめんモンスター 煮干しの解剖
	後期	C イ電流の働き	電池の種類 回路 明るくする工夫 磁石の種類 電磁石づくり 磁石を強くする工夫

I 教科等研究会からの実践報告

高等部 2 段階

1 年	1 学期	A イ植物の養分と水の通り道	植物採集 押し花づくり 標本づくり 光合成のしくみ 道管の観察（顕微鏡） （ペットボトルロケット）
	2 学期	C エ電気の利用	電池づくり（備長炭電池） エネルギーの変化 発電所の種類
	3 学期	C ア燃焼の仕組み	気体の分類 酸化（スチールウールの燃焼） 木材の燃焼 火起こし 温度 ソーラーバルーン
2 年	1 学期	B イ月と太陽	天体の種類 月の形 ☉太陽 ☾月 ☉日食
	2 学期	C イ水溶液の性質	酸とアルカリ 水素の発生 葉脈標本づくり
	3 学期	B ア土地のつくりと変化	石の種類 地層と化石 化石堀体験 火山・地震
3 年	1 学期	A ウ生物と環境	水の話 水の電気分解・合成 水田の生き物（顕微鏡） 配水場 日本で獲れるのはどれ
	2 学期	A ア人の体のしくみと働き	人体塗り絵 骨格 筋肉

I 教科等研究会からの実践報告

			呼吸（酸素・二酸化炭素） 消化・五大栄養素 循環
	3学期	C ウてこの規則性	てこの原理（つり合い） 力比べ てこを応用した道具

中学部 1 段階

1年生	前期	A ア身の回りの生物	アリを観察しよう ヤゴを育てよう ひまわりの栽培
	後期	C イ風やゴムの力の働き	風車を作ってみよう ゴムで動く飛行機を作ろう
2年生	前期	C ウ光や音の性質	鏡で実験しよう 日光で水を温めよう ストロー笛を作ろう 糸電話で話そう
	後期	C エ磁石の性質	磁石の種類 くつつく物を探そう S 極と N 極
3年生	前期	B ア太陽と地面の様子	影で実験しよう 地面の温度を測ってみよう
	後期	C オ電気の通り道	電池につないでみよう 電気を通すものと通さないもの
		C ア物と重さ	形と重さ 重さ比べ

上記の学習内容をもとに様式 1 を作っていたが、「ちりめんモンスター」や「ソーラーバルーン」など今まで生徒が興味を持ちやすかった活動を、そのまま新しいシラバスにも取り入れることができた。◎のマークは教材室にある図鑑の DVD を利用することができる内容で、シラバスに直接取り入れることはできなかったが、実験やフィールドワークだけでなく視聴覚教材を使った学習も行うことが可能である。昨年度まで「理科」の授業は高等部では AB グループでのみ行われていた。新しいシラバスの作成に当たっては、AB グループについては今回の実践報告で触れたように比較的容易であったが、今まで行っていなかった CD グループの「理科」を作成することは困難な部分も多かった。年度初めから作成に取り組んだので、出来上がったシラバスが本当に C グループの生徒たちに合っているのか、今後実際に運用してみて評価していく必要がある。

# I 教科等研究会からの実践報告

## 教科研 自立活動 実践報告

小西厚、恒川仁美、吉野あゆむ、森純人、中山健登、谷口和、山田絵里奈、西原岳児

自立活動研究会では、年間を通してメンバーより自立活動の実践発表や教材紹介を行っている。意見交換をすることで、実態把握に大切な視点や自立活動における課題の内容確認を行った。各自が気軽に実践を紹介し合い、子どもの課題背景や障がい理解を深めながら、子どもに関わる楽しさを再確認する場となった。

また夏には「遊びながら学ぼう!」をテーマに校内研修を行った。からだや息、ICT を活用した内容を実際に体感しながらの実践的な研修となった。

### 1 今年度の主な取り組み

#### (1) 「遊びながら学ぼう!」夏季校内研修

##### ① 日程、参加者

8月27日 「遊びながら学ぼう!～からだをつかった遊び～」 講師：恒川仁美  
「遊びながら学ぼう!～息遊び～」 講師：吉野あゆむ



28日 「遊びながらやってみよう!  
～プログラミング教材と電子黒板～」  
講師：西原岳児



今年度は、本校教員のみを対象とした研修であったが、両日とも10名程度の参加があった。

##### ② アンケートより

- ・子どもたちの体の使い方やボディイメージを意識しながら、教材づくりや指導を進めていきたい。
- ・おもしろい教材がたくさんで、“息の使い方”によって違う遊びになったりするのも魅力的だと感じた。
- ・ICT 時代で使える教材の紹介をきけてよかったです! Google スライドで全員一斉に一つのものを作成するというのもおもしろいと感じた。

#### (2) 自立活動だより「STEP」

今年度は、教材の紹介と活用法などの紹介について、2回発行した。活用法については、QRコードを付け、動画で確認しながら活用できるようにした。

#### 2 今年度購入した教材

- ・ソーシャルスキルがたのしく身につくカード① どっちがかっこいい?
- ・みんなの怒りスイッチをさがせ!
- ・Schau mal!
- ・トーキングゲーム
- ・かえるカード
- ・かえるカード ウォールポケット
- ・はあって言うゲーム

教材の保管場所

## 教科研 自閉症研究会 実践報告

「星の目標」のとりくみ ―ASD（自閉スペクトラム症）の子どもが目標をもって主体的に取り組める工夫―

小学部 中島 陽子

今年度、小学部3年生のクラスで取り組んでいる「星の目標」について、自閉症研究会（校内の教科研）で実践報告を行った。

### 子どもの実態

学級の児童数は8人で男女の割合は7：1である。8人中、ASD（自閉スペクトラム症）の子どもが7人と多数を占めている。児童のコミュニケーション面の課題を解決することをめざし、担任間で話し合って「星の目標」を取り入れることとなった。

### 方法

星の形をした厚紙（ラミネートをしたものでも可）を用意する。おもて面にその子の目標を、文と簡単なイラストで記す。例えば、Aさん「やさしいことばではなす」Bさん「給食を3つががんばる」Cさん「ズボンをがんばる」などである。「きつい言葉を使わない」というように否定的に表すのではなく、Aさんの目標にあるように同じ内容を肯定的に表現する。また、子ども自身がわかりやすいように簡潔に言い表す必要もある。Bさんは偏食がつよく、炭水化物しか食べたがらないので、「給食では少なくとも3種類の食材を食べること」という目標を上記のように表現している。Cさんについてはトイレ介助が必要なので、「トイレの後、ズボンを自分で引っ張り上げること」を目標に設定している。子ども向けの目標なので、正確な表現よりもわかりやすさを優先して表現するよう心がけている。星の裏面は黄色くカラー印刷し、子どもが親しみを持てるように星の顔を描いた。それを全員分、磁石で教室の小黒板に張り付けておく。朝の会で、一人ひとりの目標を読み上げる。終わりの会では達成できたかを確認し、できたら星を「くるりん！」とひっくり返し、裏面の黄色が見えるようにする。



例： おもて面

裏面

朝の会時

終わりの会時

### 結果

Aさんは、星が登場した日から、「僕の星、かっこいい！」と星の表情が気に入りに、やる気満々であった。友達への言葉かけをととても意識するようになり、「優しい言葉で言ったよ」「今日も合格するかな」と自ら主体的に目標に取り組み始めた。終わりの会で星の色が変わると、毎日「や

ったー!」「ぼく、合格」ととてもうれしそうにした。さらに、家庭においても「乱暴な言葉が減って、怒らないでよくなった」と保護者から喜びの声が届いた。Bさんについては、自分なりの秩序が重要なので、クラスの一人が欠席のため1つだけ星の色が変わらないと泣くことがあったが翌日からは平気になった。Bさん自身の星についてはあまりこだわりがなく、「星のためにがんばる」という意欲は見られないものの、摂食の目標がはっきりしたことで、取り組みやすくなった。Cさんに関しては、本人は星の目標をあまり自覚していないが、介助する側の教員が本児の自立活動の課題である服の着脱について、トイレの度に本人に促すということを今まで以上に意識して取り組むことができた。

### 考察

ASDの子どもに対しては、言葉だけで叱ったり褒めたりするよりも、視覚的支援が有効であることが多い。日々の目標を自覚させ主体的に取り組ませる方法としては、できるたびにシールを貼るなどの方法もあるが、「星の目標」はそれよりもシンプルで時間も手間もかからず、色のアピール度も大きいので、できたときは一目瞭然で達成感がある。

朝の会で目標を確認することで、毎日子どもに自覚を促すことができる。子どもが自覚しにくい場合も、教員自身がその子の自立課題を日々自覚できるのは有効である。子どもが目標を達成できなくても、教員はあくまで「残念だったね。明日は頑張ろう」という姿勢で臨む。そうすると、叱ることが減り、励ますスタンスでお互いストレスが少なく取り組むことができる。子どもにとっても、「がんばってできた」を日々積み重ねることで、自己効力感を感じたり、褒められてうれしいと思えたりして、前向きになることができる。「星の目標」はASDの子どもが主体的に自らの目標に取り組む有効な支援方法ということができる。

実施にあたっての留意点としては、まず何よりも適切な目標設定が大切である。その子の自立活動の目標を子どもにも受け入れやすい表現に直して採用することを基本にしたらいと思う。

ほかにも、その時その子の課題となっている事柄を取り上げるのもよい。また、みんなのためになる系の仕事などでもよい。毎日クリアできることが基本なので、あくまで、その子が少しがんばったらできるという内容がよい。そして、数か月取り組んで、その目標が定着したら新たな目標を掲げ、ステップアップする。

「星」以外に、以前「リンゴ」のイラストで取り組んだこともあるが、同様の効果があった。毎日目標を確認し、できたら色が変わるという単純な仕組みが、ASDをはじめとした知的障がいのある子どもに分かりやすくなっている。また、星がクラスの人数分並べて掲示されている風景が、環境刺激となって「頑張って今日も色を変えよう」という子ども自身の意欲を促すことになるようだ。自閉症ならではのこだわり（色が変わらないとイライラするなど）が見られることもあるが、あまり厳密に適用しすぎず、柔軟な運用がうまくいくコツである。

### 本校のキャリア教育の観点より

この取り組みを、本校のキャリア教育の観点に照らし合わせてみると、今の学級の子どもたちの目標は、【1コミュニケーション力】や【2協調する力】【4健康管理力】と関連が深い。今後、学年が上がるにつれ【5役割遂行力】や【6見通し行動する力】の育成も視野に入れていきたい。

教科研 国語 実践報告

高等部 本木愛香

1、概要

郵便局から配布される「手紙の書き方テキスト」を用いて、案内状の作成に取り組んだ授業実践をまとめる。

2、キャリア教育としての位置づけ

生徒たちに「将来の進路実現や社会の一員としていかに生きるべきか」を考えさせ、具現化させていくには、実社会、実生活とのつながりを感じさせることが必要である。その中で、「手紙の書き方」の教育が担う役割は大きいと考える。

暑中見舞いの作成では、定型文以外にも文章や絵を入れる暑中見舞いを作成するように指導した。また、自分の住所を調べる宿題を出題したり、宛て先を学校の教員に固定して返事が届くように設定したりすることで、手紙を送るのに必要な知識を得たり、手紙が返って来る喜びを感じたりできるように工夫した。

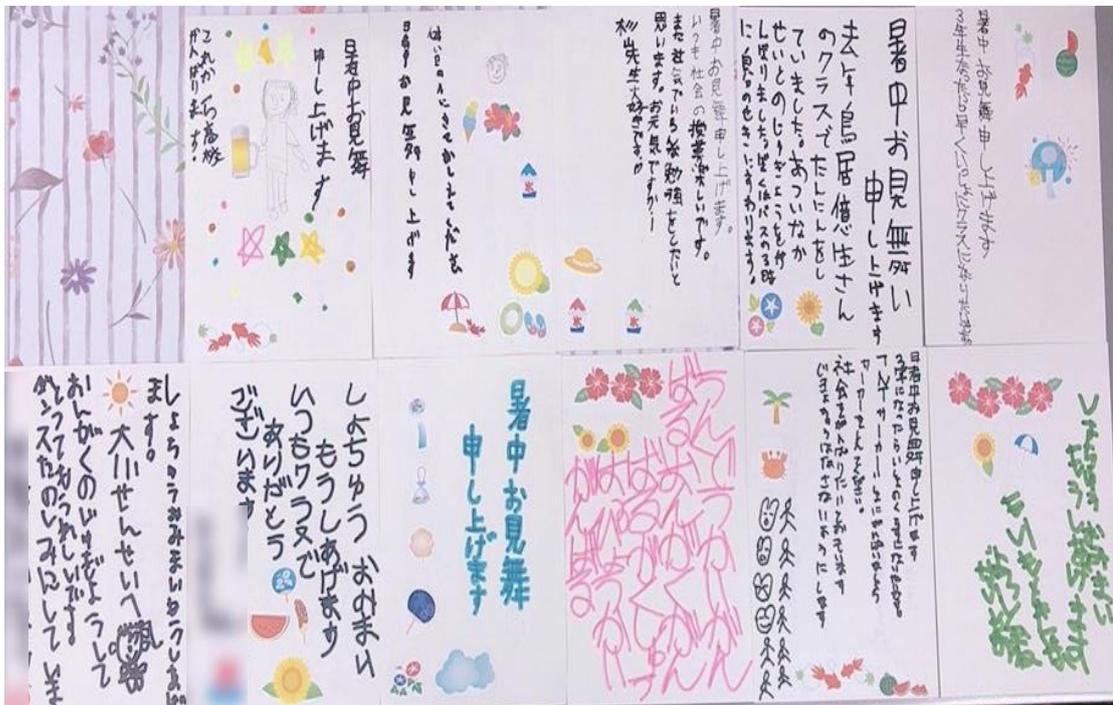
3、指導方法

(1) 宛名の書き方について

- ①郵便番号は正しく丁寧に書く②相手の名前は真ん中に大きめの字で書く
- ③相手の住所は名前より小さめの字でバランスを見ながら書く

(2) 暑中見舞いの書き方について

- ①「暑中お見舞い申し上げます」と書く②はがきを出す人へ向けた一言を書く
- 実物のはがきの大きさの用紙に練習をしたあと、本物のはがきに清書した



I 教科等研究会からの実践報告

音楽科教科研 「楽譜の工夫について」

小学部：佐藤・平田 石場 西口・平岡 加藤・船木 酒井 岡田

中学部：梶本・山田 片山・鹿嶋・西森 九島・田口

高等部：河田・福峯 大川・桑原 高取・松本

学 部	教材紹介など
小学部	<p>特別支援学校 小学部学習指導要領 音楽 第3段階 A 表現では「簡単な楽譜などを見てリズム演奏などをする技能」を身に付けることとなっている。これに基づき、小学部 3 年生では写真のような絵譜を用いて指導した。カスタネットを叩く部分はイラストを使用し、音を出すことが分かりやすいようにした。休符の表し方については、今後、楽譜に移行することを見据えて休符記号を用いた。また、この絵譜はカスタネットのイラストと休符の記号を自由に貼り替えられるようになっている。授業の中で貼り替えて即席のリズムを作り、絵譜に対する児童の理解度を測ることもできた。</p>
中学部	<p>(1 年生) ミュージックベルで「ドレミの歌」を演奏する際、目で見えて演奏するタイミングが分かるように、音を鳴らすタイミングでイラストと階名が出る視覚支援教材を使用した。            (2 年生) ドラムの楽譜として、スライドショーを用いたイラストと文字を使った視覚支援教材を使って授業を行った。バスドラムは「ドン」、スネアドラムは「タン」、ハイハットシンバルは「ツ」などの擬音語を使うことで、曲を覚えるツールとしても活用できた。            (3 年生) パーラックで「どんぶりパーティ」のリズム遊びをした。言葉のリズムに合わせてリズムを刻む際、太鼓のマークを言葉の上に載せ、それぞれのどんぶりの写真カードを渡し、担当のパートが分かるように工夫した。</p>
高等部	<p>(1 年) 記号カードを用いてリズム奏を行った。音符、記号の意味を理解しリズムを確認しながら、手拍子やタンバリン、ボンゴやコンガでリズムを表現することができた。(2 年) 拡大した五線譜をホワイトボードに貼り、楽譜を見て演奏できるように取り組んだ。音符がわかるように、繰り返しピアノで音符ごとに音を鳴らし、音の高さの確認を行った。併せて速度や発想に関するもの、強弱記号、唱法、奏法などを楽譜を見て学習した。あまり目にしない音楽の用語や記号を知ること、生徒の興味関心を強く引き出すことができ意欲的に学べた。(3 年) ドレミパイプの和音奏をした。ドレミパイプの色と合致する磁石をホワイトボードに提示し、生徒が自分の演奏する部分を見て演奏ができるようにした。合図がなくても、演奏する部分、休む部分を意識して演奏することができた。</p>

## 授業内容から見る学部間の共通点と相違点

図工美術科教科研 宮脇斐香

### 1 各学部の授業内容

小学部の図工、中学部・高等部の美術の授業において、学年や発達段階ごとに授業内容や扱う道具、素材に傾向があるか比較するため、一部ではあるが各学部の授業内容を聞き取った。

- (1) 小学部 1年 はじき絵を利用した花火の描画（画用紙、クレヨン、絵の具）
  - 1年 ころがし絵でうちわの制作（画用紙、絵の具）
  - 3年 ちぎり絵（画用紙、のり）
  - 3年 動物の塗り絵（クレヨン、絵の具）
  - 3年 にじみ絵で海の生き物の制作（和紙、絵の具、シール）
  - 5年 クレヨンと粘土をつかった描画（画用紙、クレヨン、ミルキー粘土）
  - 5年 藍染め（手ぬぐい、染料）
  - 6年 紙粘土で「太陽の塔」制作（紙粘土、ペットボトル、画用紙、厚紙、絵の具）
- (2) 中学部 1年1グループ スチレン版画（版画用紙、スチレンボード、インク、水のり）
  - 1年3グループ ろくろを使った円模様の描画（画用紙、手回しろくろ、ペン、水彩色鉛筆）
  - 1年3・4グループ せっけんをパフェに見立てた制作、鑑賞（ボディソープ、カップ、食紅、スパンコール、緩衝材）
  - 2年1グループ 手作り絵本（白紙の絵本、色鉛筆）
  - 2年2グループ 花の描画（画用紙、花の写真、アクリル絵の具）
  - 2年3グループ 丸シールを使った描画（スケッチブック、シール、ペン）
  - 2年3グループ 絵の具やペンを使った画面構成（画用紙、段ボール、折り紙、絵の具、ペン、マスキングテープ）
- (3) 高等部 3年学1グループ はんこづくり（スチレンボード、木材、カーボン紙、油性ペン）
  - 3年学1グループ 水墨画（紙、墨）
  - 3年学1グループ 墨流し、折り染め（紙、墨、染料）
  - 3年学2グループ 陶芸で器づくり（陶土、石膏型）

以上の内容を、工程や作業の難易度（縦軸）、受動的・能動的であるか（横軸）の観点から分布図に配置したものが資料1である。

### 2 資料からの考察

各授業を分布図に配置することで、工程や作業の難易度と児童生徒の能動的・自発的な活動に相関関係が見られた。また、授業内容が比較的平易である左下に小学部や中学部の3・4グループの授業が、細かい作業や構想を必要とする右上には中学部の1・2グループや高等部の授業が



## 「学年体育」各学部での取り組みについて

中学部：丸尾大希 高等部：村田康剛

令和2年度より教育課程が再編され、時間割が大きく変わった。保健体育は、高等部では以前の縦割りや学習グループ別での授業が見直しとなり、新たに「学年体育」として位置付けられることになった。中学部では「学部体育」「学年体育」の両方が時間割に組み込まれている。また、授業時間も70分から50分になった。

＜中学部・学年体育のメリット・デメリット＞

■学部体育と比較して学年体育のメリットは、学年全体での集団行動ができ、学習グループが違う生徒と一緒に体を動かすことができる点、プランナーにとっては、担当学年なので生徒の実態を把握しやすいという点であった。学部体育では週に1回の縦割り授業で、他学年の生徒の実態把握が大変であった。

また今年度は運動会の演技を学年ごとに行ったので練習時間を学年体育の時間を使うことで確保することができた。運動会だけでなく、学年行事に絡めた内容に取り組める点が学年体育の良かった点としてあげられる。

デメリットは、発達段階別に運動量の確保をすることが難しかった点である。学年全体で取り組むには運動強度を下げる必要があり、運動強度を上げるとグループ別に取り組むこととなる。グループ別にすると学年体育のメリットがなくなってしまうので課題としてあげられる。

＜新型コロナウイルス感染症対策＞

- ・ダンスを多く取り入れて運動量を確保した。
- ・クラス対抗リレーなどでは一人ずつ行うことができる種目に取り組んだ。
- ・密集するような動き、種目は取り組まない。
- ・呼吸が上がらないようにしながら筋力トレーニングで運動量を確保した。
- ・ボール等の教材の共有がないように授業を展開した。

＜高等部の取り組み＞

■特別教室の有効活用。

- ・グループや種目に応じて活動場所（グラウンド、体育館、集会室）が確保されている。

■運動能力に応じたグループ展開が可能。

- ・専門性（バスケット、サッカー、陸上など）を活かした授業ができる。
- ・種目によって、グループを変更できる。

■他学年から体育科の教員を配置。

- ・準備や片付けがスムーズになり、活動時間も確保できる。
- ・指導の充実や安全面への配慮につながる。
- ・他学年の生徒の実態を把握することができる。
- ・授業の教材研究にもつながる。

◎新型コロナウイルス感染症対策で工夫した点

■集合はできるだけ広がった状態で行っている。

## 生活を豊かにする取り組み ～ひも結び～

家庭・教科研 星 理子

中学部1年は4つのグループに分かれて授業を展開している。そのうち1および2の学習グループで、半分近くの生徒が靴ひもやエプロン、また袋類を結べないなど、日常生活で困り感を持っていることに気づいた。S-M 社会能力検査（第3版）における作業領域の質問項目に「ひもを結んだり、ほどいたりできる。（ちょう結びなど）」（発達段階：5歳～6歳5ヵ月）、とあるように基本的なひも結びができるとADL（日常生活動作）が向上することが期待される。今年度は中学部家庭のシラバスにもある「ひも結び」に焦点を当て、生徒に身につけてほしい力を新学習指導要領の3つの柱にそって目標にし、取り組んだ実践を報告する。

[めざすところ] ※ ( ) 内は、新学習指導要領における「3つの柱」より

※ 【】内は、豊中支援学校のキャリア教育6観点とその内容項目に基づく

- ・ソーイングなど基礎的な技術の向上。（知識・技能）【役一⑦】
- ・私たちの生活の中にある、結んだり包んだりする伝統文化の継承。（知識・技能）【健一⑭】
- ・ものづくりなどを通して生活が豊かになる。（思考・判断・表現）【健一⑭】
- ・好きな服を選び、着用することで自己表現（自己実現）につなげる。（思考・判断・表現）【役一⑥⑦】
- ・ADLの向上。自尊感情を高め、人や社会に貢献したいという社会的欲求をはぐくむ。（学びに向かう力・人間性等）【健一⑭】

[指導について]

紙皿アクリルひもで作った道具と結び方を記した練習キットを、1・2グループの生徒全員に用意した。まず夏休みの宿題として配付し、生徒だけでなく保護者にも「(教育の)情報」として2学期の家庭の授業では「ひも結び」に取り組むことを伝えた。最初の授業で、生徒には主に「玉結び」、「真結び（本結び）」、「ちょう結び」の3つを課題とすることを伝えた。1グループ生徒の半分以上は最初から真結びとちょう結びができたが、正しく結ぶことのできる生徒は少なかった。正しく結ぶためには、縦結びにならないように注意する必要がある（図1）。2グループでは、数名の生徒が玉結びや真結びができなかった。正しいかどうかに関わらずちょう結びができる生徒は少なかった。「ひも結び」ができるようになるには、とにかく練習を繰り返し、正しく結ぶコツを自分なりにつかむことで各自の技能が定着していく。取り組み始めたころは、個人差が大きく、予定していた授業時間数では実態把握程度にとどまった。

「ひも結び」ができるようになるためには、授業の中で継続して扱っていく必要を感じたため、生徒の技能のレベルに合わせて取り組めるように工夫した。



図1 正しい結び方

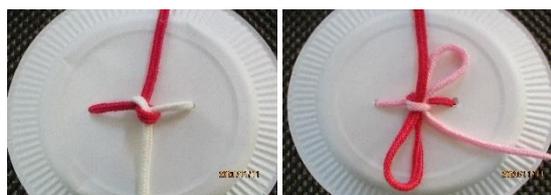


図2 間違いやすい結び方

## I 教科等研究会からの実践報告

最初から「ちょう結び」ができる生徒は、学習意欲を維持したまま興味を持って取り組めるように、エプロンを後ろ手に結ぶなど実用的な場面を想定して練習したり、より難易度の高いイアンノットなどの結び方にチャレンジしたりした。正しく結ぶことが目標の生徒には、「真結び」がうまくできたときは結び目がハート型になるなど、うまくいったときの目安を伝え、自ら考え修正できるようにした。ひも結ぶに難しさを感じている生徒には、学習意欲を失わずに粘り強く努力できるように、教員が付き添って指導した。生徒の取り組みの様子をいくつか紹介すると、「ほどけにくいちょう結び」の方法を知りたいという自律性のある動機をもった数名の1グループ生徒は、難易度の高いイアンノットの方法を習得できた。ある2グループ生徒は初め全くひもを結べなかったが、本人の努力と家庭の支援で3つの課題を1ヵ月足らずで習得した。この生徒はひも結びのスキルを生活の中で自然には獲得できなかったが、学校で「教える」ことでできるようになった。一方で、一度身に付けた技能を忘れる傾向が全体的にみられたため、継続的な取り組みや日常生活に汎用していくことの必要性を感じた。そこで家庭科において、授業前の手洗いと「ひも結び」練習をルーティンとして組み込み、定着するようにした。

[まとめ]

現在ほとんどの1グループの生徒がちょう結びの方法でひもを結べるようになった。2グループの生徒全員は、正確さにばらつきがあるが玉結びと真結びができるようになった。また2グループにおける半数以上の生徒が正しい方法でちょう結びができるようになった。

金曜の4限目に行われる1グループの授業は、疲れて気の緩みやすい時間帯である。新型コロナウイルスなどの感染症予防のため授業前の手洗いの励行と5分間の「ひも結び」への取組みは、生徒の集中力を高め、休み時間から気持ちを切り替えることに役立った。さらに主体的に学習に取り組めるように「ひも結び」を含む授業全体の流れをパターン化し、見通しをもてるようにした。またその日の学習目標を明確にし、ノートに記入することにした。どの生徒も目標を達成し、「できた」という状況をつくるために、事前にTT連絡票でサブティーチャーに生徒への支援内容を伝えた。授業の最後は、3段階で目標の達成度について振り返った。生徒自身の評価の判断材料になるように、授業のなかで生徒がうまくできたことをできるだけ伝えるようにした。生徒が満足とともに学ぶ面白さや「できた」ことを実感できる客観的な判断を促すことは、当該学年の1・2グループの生徒には可能だろう。櫻井(櫻井 2020)によると、『授業の終わりに生徒が達成したかどうか、授業が楽しかったかどうかを振り返ることで主体性が高まることが予想され、自ら学ぶ意欲につながることを考えられる』、という。メタ認知に関して言えば、同様に今回の取り組みにおいて、何となくひもを結べる生徒に対し、「正しい」基準を授業の中で示すことで、正しいかどうか自ら判断するメタ認知を鍛えるのに役立った。

先に述べたように、ひも結びの技能の定着には、生徒の日常の中にひも結びの文化を積極的に取り入れていくことが必要である。今回習得した技能を生かせるように、今後の学習内容に、弁当風呂敷やカフェエプロンの製作を取り入れていく予定である。

引用文献：櫻井茂男(2020)「学びのエンゲージメント」、図書文書

「かぞえられる」ようになったよ！  
～Aくんの「かず」の学習3年半～

★Aくんの様子【かず以外】

小学部4年

藤川 智子

	1年生 前期ごろ	4年生 10月ごろ
S-M 社会能力検査社会生活年齢	3歳 10か月	5歳0か月
コミュニケーション	理解	簡単な単語
	発信	簡単な単語
	簡単な単語	2語文程度、手話、ひらがな少し
	喃語のような発声、クレーン、視線	母音や口唇音の発声、手話、ジェスチャー、ひらがな表の練習中 有意味音声発話はない

★かずに関する取り組みと変化

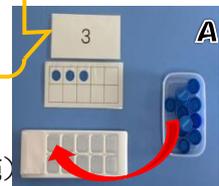
1 数えてあらかず

1年生 前期ごろ	4年生 10月ごろ
「数えるって何??」 1つのマスに1つの物を入られる	30 程度まで数えて数字表記や手話表現できる 10のまとまりを作りながら数えられる 何十何円を十円玉と一円玉で出せる

(1) 1対1対応：1つの枠に1つの物を入れる

- ① 1枠に1つだけ入れるケースに入れていく
- ② いくつか入れられるけど、1つだけ入れていく

半分に折って数字だけ見えるようにもできます。



(2) ものの数と数字カード・手話（音声）を一致させていく

- ① 丸の数（数字付き）のカードと同じように物を置く（1～5で繰り返し実施）

ア) 手本となる絵カードと同じ大きさ・色の物を操作する《写真A》

イ) 操作する物を色々な物（ケースに入る大きさの物）に変更して取り組む《写真B右》

ウ) 手本となる絵カードを小さくする《写真B左》

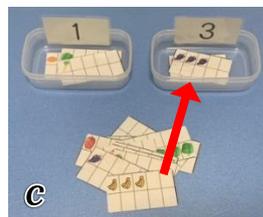
エ) 文字だけを見て物を置き、その後絵カードで確認する

※確認時には教員が音声・手話をつける

- ② 同じ数のカード集め（絵カード）《写真C》

ア) 絵が10枠にきれいに並んでいるカード

イ) 絵がバラバラに描かれているカード



(3) 10以上の数

- ① 1から順に数えていく

- ② 10のまとまりを作りながら数える 例「10、20。と、3。→ 23」

ア) 10こちょうど入るケースでまとまりを作る《写真D左側》

イ) たくさん入るが、10こ入れてまとまりを作る《写真D右側》



## II 各学部のポスター発表

### 2 数字

1年生 前期ごろ	4年生 10月ごろ
指で表したり、聞いて選んだりできない 1桁の数字を、順番に並べられない	40程度まで指で表現できる 100までの数字を聞いて選べる、順に並べる

(1) 数字カードを順に並べる(1~50)

- ① 近くの見本を見ながら並べる
- ② 自分で考えつつ、わからないときは遠くの見本を見に行き、覚えて帰ってきて並べる(記憶の保持力を少しずつ高めていく。イメージは『けもの道を作る!』)
- ③ 1~100までの表を使って穴埋めをする  
(めくると答えが書いてあるので、自分でその場で納得!!)
- ④ 10個の数字を順に並べる(必ずしも一の位が1でスタートしない) <<写真E>>



### 3 2つの物を比べる

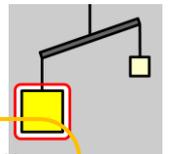
1年生 前期ごろ	4年生 10月ごろ
記録なし(2年生 前期に「多い/少ない」に取り組んだが難しかった)	聞いて「多/少」「大/小」「長/短」の判断ができる 手話で「多」「大/小」「長/短」を表現できる

(1) 給食時間に好きなおかずで考える(①②でも音声や手話をつける)

- ① 実物(多いおかず/とても少ないおかず)で、どっちがいい?
- ② 絵カード(大盛り/少盛り)で、どっちがいい?
- ③ 音声と手話で、どっちがいい?

(2) 学習場面で比較の学習

- ① パッと見てすぐに分かるほど差のある物の比較
- ② 数えたり並べたりすると分かる程度の差の物の比較



見た目は同じ2つの箱(満タンの砂/空箱)の「重い/軽い」の判断は難しかったです。目に見えない物を考えるのは難しいですね。

### ★Aくんの現在の様子と今後

輪飾り作りにハマっているAくん。それに使う折り紙を隣のクラスにもらいに行くことを楽しみにしています。1便下校の日は「今日は2枚、うーん3枚!」、2便下校の日は「5枚」。もらえなかった日は「明日は10枚!ダメ?8枚かな?」と表情豊かに考えて手話で交渉しています。数を学習したことで、

○自分の意思をより具体的に伝えられるようになった【コミュニケーション力】

○「明日5枚。今日はがまん」と、見通しを持って自発的に我慢できるようになった【協調する力】

○給食では「このおかずは少なくして」と食べたい量を伝えられるようになった【健康管理力】と、将来、Aくんが自立する際に必要な力も育めたと感じています。

今年度から小学部シラバスの運用が始まり、これまでに組み立てていなかった学習内容があることに気づかされました。それらにも目を向けつつ、Aくんがより主体的に生きるための土台となるような、「かず」の取り組みを今後も考えていきたいです。

II 各学部のポスター発表

2019年度作成 小学部シラバス「算数《数と計算》」段階表		
Aくんの達成学年		学習内容（2重下線部はAくんの様子）
1年	1段階-Ⅱ	・ある／ない（Ex. 容器から容器へ、ビー玉を移す。なくなったら「おしまい」）
1年		・1個、2個、たくさん ※「たくさん」の表現は不可
(1年)		・5までの数唱（4は「し」） ※音声発信困難のため指で表現
1年		・3までの理解（具体物を使って） ※具体物と数字・指表現が一致
2年	2段階-Ⅰ	・物と物とを対応、比較して同等・多少がわかる ※多い／少ないの表現の難しさ
1年		・ものの集まりと対応して数詞がわかる
1年		・個数を正しく数えたり、書き表したりする ※5程度までOK
		・2つの数を比べて数の大小がわかる
2年		・10までの数量 ※15程度までOK
		・数えるものを移動させる・指さしをする・最後の数詞が集合数を表す→整理して数える・目で追って数える、仲間集めしながら数える
(2年)	2段階-Ⅱ	・数の系列がわかる、順序がわかる ※数の系列は未実施
4年		・0がわかる（0が他の数と同じ仲間としてとらえられる） ※「ない」を「0」で表現
2年	2段階-Ⅲ	・1つの数を2つの数に分ける、2つの数を1つにまとめる（3までの数→5までの数）
4年		・集合数を1つの数と他の数と関連付けてみる（Ex. 5は3より2大きい）
(2年)		・20までの数について、数詞を唱える、数える、表す、数の系列を理解する ※数の系列は未実施
-		・個・人・本・冊・枚など助数詞を用いて表す
		・100までの数について、数詞を唱える、数える、表す ※30程度まで可
	3段階-Ⅱ	・100までの数について、数詞を唱える、数える、表す、数の系列を理解する
		・2ずつや5ずつのまとまりで数える
		・数を10のまとまりで数えたり、10のまとまりと端数に分けて数えたり書き表したりする
		・具体物を分配したり、等分したりする

3段階-Ⅲ以降は省略

# 掃除への取り組み

～やらされる掃除から  
楽しんで自ら取り組む掃除へ～

中学部 2年

## 掃除を学年で取り組むことになった きっかけ

クラスでそうじに取り組む中で、  
うまくいかない現状があった。そ  
のため1人ひとりの基礎的能力  
をあげる必要があると考えた。

## 学年目標

One for All All for one

～ひとりはおみんなのために みんなはひとりのために～



掃除を行う中で、学年目標を  
意識する機会を増やし、自分が  
できることを探して、助け合い  
ながらみんなで一つのことを  
やり遂げることを目標に取り  
組むようにした。

## 1学期の取り組み方 の反省

一人ずつ時間を確保して清掃方  
法を指導できたが、掃き掃除や  
拭き掃除の内容が難しい生徒へ  
の対応に、課題がみられた。

## 考えられる改善点

・掃き掃除や拭き掃除の内容が  
難しい生徒への対応に、改善  
が必要である。

## キャリア教育6観点と関連した目標設定

キャリアの観点	学習・活動内容
コー①集団に参加できる。 ②協力できる。 役③係り、当番、代表等の仕事を遂行できる。	グループに分けて掃除に取り組む。 1・2Gは、ほうき、雑巾がけ、モップ 3・4G新聞紙をまく、机ふき、雑巾絞り
ルー④道具を正しく使うことができる。 役⑤安全に考慮して活動することができる。	道具を正しく使うための座学、掃除道具を使った ゲームやクイズなど行う。*自立活動学生
ルー④順番を守ることができる。 役①学年、クラス、グループ等に属してい ることを意識できる。 ①役割遂行することができないときに、 助けを求めることができる。	グループ内での役割や順番を決めて取り組む。実態 に応じて役割を設定する。
健⑥手指を清潔に保つことができる。	掃除後の手洗いなど。*家庭
役⑩適正に自己評価することができる。 ②作業のミスに気づき修正することが できる。	掃除後振り返り、自己評価をする。

## 豊中支援学校 キャリア教育6観点とその内容項目

キャリア教育6観点	内容項目
コミュニケーション力 (人間関係・社会関係調整力) 番号【10-0】	発信 ①あいさつをする必要がある ②自分の発言・態度を伝えることができる ③自分の意見を伝えることができる ④役割・連絡ができる ⑤相手の話を聞くことができる ⑥話し合い・交渉ができる ⑦自分の発言・態度に責任をもち、謝罪や謝辞を伝えることができる
探検する力 (人間関係・社会関係調整力) 番号【10-0】	発信 ①自分の意見・考えを表現することができる ②自分の意見を伝えることができる ③自分の意見を聞き、相手の話を理解することができる ④自分の意見を聞き、相手の話を理解することができる
メール理解・遵守力 (人間関係・社会関係調整力) 番号【10-0】	公共の場 ①自分の発言・態度に責任をもち、謝罪や謝辞を伝えることができる ②自分の意見を聞き、相手の話を理解することができる ③自分の意見を聞き、相手の話を理解することができる ④自分の意見を聞き、相手の話を理解することができる
職業理解・遵守力 (キャリアプランニング能力) 番号【10-0】	職業理解 ①自分の発言・態度に責任をもち、謝罪や謝辞を伝えることができる ②自分の意見を聞き、相手の話を理解することができる ③自分の意見を聞き、相手の話を理解することができる ④自分の意見を聞き、相手の話を理解することができる

## 自立活動の時間で

### 自立活動学年



掃除用具の  
使い方を座  
学とクイズ  
形式で学ん  
だ。

### 自立活動学年(ダンス)



ほうき掃きや  
窓拭き、雑  
巾がけなど  
の動作をダ  
ンスの中に  
取り入れた。

### 自立活動学年(レク)



新聞玉をほうき  
掃きで運んで  
次へ繋ぐ  
「ほうきリレー」  
をクラス対抗で  
行った。

## まずはクラスで

### クラスの取り組み① 雑巾



手本通りに机を拭  
く練習を繰り返し  
行った。

### クラスの取り組み② ほうき



テープで床に目印  
を作り、そこにゴミ  
を集めるように指  
導した。

### クラスの取り組み③ ふりかえり



実践後、振り返りを行った。

## グループに分かれて

### 1Gの取り組み



・作業中に私語をしな  
いこと。  
・3マス掃きを丁寧に  
することに取り組んだ。

### 2Gの取り組み



3マスばき  
練習に  
取り組んだ

### 3G/Aの取り組み



正しい雑巾のしぼり方や机の運び方・拭き方を一人ずつ確認しながら取り組んだ。

### 3G/Bの取り組み



実態に応じて、ひとりで机と椅子のセット・机・椅子を運ぶことに取り組んだ。

### 4Gの取り組み



掃き掃除、机運び、台ふきなど、一人一人ができることに取り組んだ。

## 現在までの達成点

- 1G・・・三マス掃きを理解し、少しの言葉かけがあれば協力して取り組むことができる。
- 2G・・・ていねいに床拭きをすることができる。
- 3AG・・・机の持ち運びや、机拭きに1人で取り組めつつある。
- 3BG・・・机の持ち運びを一人で取り組むことができる。
- 4G・・・一人一人の実態に合わせてできることに取り組んだ。

## まとめ

グループでの掃除学習を経て、生徒それぞれが自分の仕事・役割が明確になり、掃除の流れを理解できたことでスムーズに取り組めるようになった。そして、掃除道具の使い方などの技術面の向上が見られた。

また、友達と協力でき、リーダーシップをとれるようになった生徒もいた。それにより、クラス全体がまとまって掃除に取り組めるようになった。

これからの課題として、使いこなせる掃除道具の幅を広げることや、トイレ掃除など新たな場所の掃除に取り組んでいきたい。定期的な継続や指導方法を共有することでより一層の技術力の向上につなげたい。

家庭科の授業の紹介～環境教育の分野・座学と被服実習～

高等部 3年 教諭 二ノ方 香菜

生徒の実態 (高等部3年職業グループ)

授業に取り組むことができ、積極的に発言できる生徒もいる一方自ら発言しにくい生徒もいる。実習の分野については、全体指導で、ある程度分かる生徒より、一つ一つを丁寧に指示しながらでないといけない生徒が多い。ミシンの準備や扱いは1, 2年生での実習を通して、ある程度できるようになってきている。

めざす授業

- 1、どうしても、自分は何ができるんだろう、自分は次に何をすればいいのか等「自ら考える」ことのできる授業づくり。
- 2、「できた」という達成感を感じることのできる授業づくり。

設定の理由



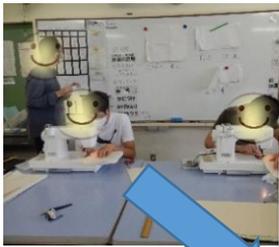
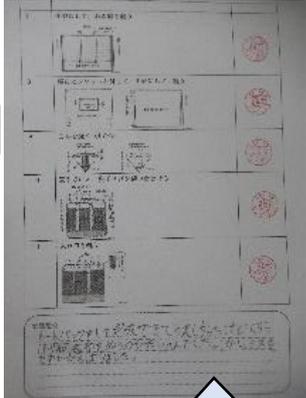
・高等部の家庭科ではまだ触れていなかった環境教育の分野の内容であること、それに関連した被服実習を行うことができるため設定。被服実習では卒業してから本や雑誌を見て、作成するのはハードルが高いため、YouTube を利用し、卒業してからも自分で調べ何でも作ることができることを体験してほしいと考えた。

テキスト  
地球教育  
2020

「環境教育の分野（座学）」

時間	授業内容	生徒の様子	教師の気付き
2h	環境に配慮した生活 (冊子/VTR/プリント/ クイズ)	(授業の最初) 知っている環境問題について答えられなかった。 ↓ (授業の最後) 生活の中で自分のできそうな事を答えることができた。	VTRを見たり、冊子のイラストやクイズで確認することで飽きることなく取り組むことができる。  コ-2356
2h	SDGsカレー買い物 ゲーム (班活動)  消費者教育センターHPに 色々な教材あります。	「食べ物の食品ロスをなくそう」という目標でどの様に買い物をしてもらいたいのかを班で話し合うことができた。	4人分のカレーを作るという量の目安が分かっていない生徒は、たくさん買ってしまっていた。産地や手持ちのお金、食材の量など、考える要素が多く少し難しかったので、要点を絞ればよかった。  コ-8ル-10協-234
2h	食から見える環境問題～食べ物の今と昔、旬～ (冊子/スライド/プリント)	昔の食事と今の食事の違いに気が付き、発言できた。旬の食材を考え一覧で確認、フードマイレージや産地消費の環境への影響を各自考え、発表することができた。	考えたこと、知っていることを記入する形式にすることで、それぞれが自分の考えを持ってから取り組もうとすることができる。  コ-356ル-2
2h	食べ物はどこからくるのか体感しよう～フードマイレージ～ (班活動) ①晩御飯のメニュー決め ②どんな材料があるか ④広告から食材を探す ⑤産地を確認し、地図に貼る	班での自分の役割が決まると広告を見て、「タコがない」「肉見つけた」と積極的に取り組んでいた。地図帳を見ながら様々な産地があることに驚いている様子も見られた。	バランスよく献立を組み立てるのが難しい班もあり、例を参考に考えていた。班によっては分担して食材を探し、協力して活動できた。  コ-8協-234

マイバッグの作成 (被服実習)

授業内容	生徒の様子	教師の気付き
2h YouTubeで作り方確認 生地を型紙に合わせて切る	全員が型紙を写し取り、切ることができる。	裁ちばさみの扱いがうまくなっている。型紙があることで間違えず切ることができた ル-④
10h~ ① YouTubeで動画を見て作り方の流れを見る  ② チャコペンで指定の位置に縫い線を引く。  ③ ミシンで縫う ・ミシンをセットする ・チャコペンで引いた線上を縫う (ミシンを待つ間は刺し子をする)  ⑤ 振り返りシートの記入と来週の予定の確認	①  ②  待ち時間は、刺し子 ③  	・①~⑤を授業毎に繰り返すことで、作業の流れをスムーズに理解している。 ・チェックカードで何番までできているのか確認して、自分の進捗状況を把握しやすく、「ここまでできました」「次ここです」と答えることができる。 コ-③⑥役-③⑩⑪見-②  進捗チェックシートで毎回確認!  完成♪ 希望者はチャックを

座学・実習共通振り返りシートで授業後の感想記入と理解度チェック!

まとめ

授業後には、「家の冷蔵庫で賞味期限切れを確認してみる」という感想もあった。また、校内の大掃除の時には段ボールを破ってゴミ箱に捨てる様子を見て、「段ボールはリサイクルできるんじゃないか」と発言してきた生徒がいた。自分たちの生活様式が環境破壊へとつながることを知り、今後、環境型社会を担う一員であることを意識して、実生活の中で実践できるようになることを期待する。また、実習分野でも身近な YouTube で作りたいものを自ら調べ、作ってみてほしい。



今後の課題

社会生活で新聞作成をしてもらいました

他教科との連携 (理科や社会、園芸など)

座学

宿題でのフィードバック (長期休み等)

メニューを考えての調理や、買い物の経験

実習

YouTube を使い自分で検索して作成する

## 教科研 自立活動の取り組み

【自立活動】教科研

発表者：小西厚、西原岳児、中山健登、恒川仁美

支援学校では、小・中・高等学校の各教科等に加えて「自立活動」の領域を設定し指導することで、児童生徒の人間として調和のとれた育成をめざしています。今回の発表では「自立活動」について目標や内容をあらためて確認し、日頃教科研で取り組んでいる「子どもたちのできた！」が実感できる実践発表や教材について紹介します。

### 1 自立活動の目標や取り組み方について

自立活動の目標（学習指導要領より引用）

「個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。」

子どもが日常生活や学習場面で  
**困っていることを改善・克服する**  
という視点が大事になります



自立活動の指導は、一人ひとりの児童生徒の実態に対応した活動であり、よりよく生きていくことをめざした**主体的な取り組みを促す教育活動**です！

学校の教育活動全体を通じて適切に行う

自立活動の  
時間に  
おける指導



各教科等での指導

- ・教科の目標を達成するために、個々の困難に配慮する。
- ・個々の課題を明確にした支援が必要になる。

各教科等を合わせた指導

- ・学習場面や生活場面で自立活動の指導を行う。
- ・個々の課題を明確にして、どの場面でどのような配慮や指導をするのかについて具体的な計画が必要になる。

時間における指導以外の自立活動の指導



### 2 自立活動の内容

自立活動の内容はこの2つから構成（学習指導要領より引用）

- ① 人間としての基本的な行動を遂行するための要素
- ② 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な要素

自立活動の内容  
の考え方

授業名になくても、  
私たちは毎日取り  
組んでいます！

自立活動は、**子どもの実態に応じたオーダーメイドの指導**です。

そのため子どもの困り感に対して、各教科や1日の生活の中で「**どの場面で」「どのような課題に」「教員がどのように支援して」「本人がどのように取り組むか**」が**大事**になります。

<キャリア教育と自立活動>

キャリア教育と自立活動は「社会的な自立をめざす」という共通する定義や目標をもっています。

## 学校で使える身体的アプローチ

担当:小西

①握手  
一歩引よく握ります。  
 「グー・パー」、「反対の手」

②指・手首弛め、前腕の弛め  
一握したのちに、目を閉じて息を吐き出しやわら。



⑦腕上げ動作コントロール (1)  
【動作法】両手同時に上げる



⑨座位での腰の動き  
一握したのちに目を閉じて息を吐き出す



③頭部、背中、胸の押圧  
自然なスペースがある人とは特にお勧めです。

④お腹の押圧  
一手腹(丹田)の押圧、腰背十二本の押圧



⑦腕上げ動作コントロール (2)  
【動作法】両手同時に上げる



⑩座位での重心移動、左右踏みしめ  
【動作法】アキス



⑤肩の押圧  
【動作法】両手同時に上げる  
 一握したのちに、ゆっくり、よわわ。

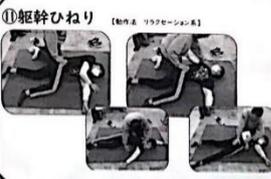
⑥肩の上げ下げ、寄せ開き、閉じ開き  
【動作法】両手同時に上げる



⑧座位での直の姿勢作り  
【動作法】アキス



⑪軀幹ひねり  
【動作法】両手同時に上げる



## ICT機器を活用した実践例

担当:中山・西原

### ①どれにする?(アプリケーション)



### 特徴

- ①多数決を写真付きの大画面でできる
- 視覚的にわかりやすい
- ②画面を押すだけの簡単操作
- ③途中経過もわかるので、ドキドキ感も楽しめる。

### 実践結果

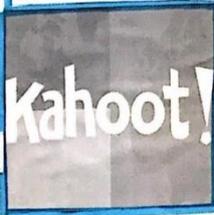
画像を見て、押して選択することができる  
 児童が増えた。

写真が表示されることで、注目する点  
 分かりやすいようになっていた。

自己表出のいいアプローチが  
 できていると感じた。

### ②カフト

### クイズで盛り上がる!



クイズ大会がアプリやwebで、簡単にできます!  
 クイズだけでなく、使いみちでは投票も! 使い方は無限大  
 すごく簡単です

- <使い方>
- ・事前に「Kahoot!」で問題を作成(2~4択)
  - ・子どもたちはiPadで回答をし、正答率を競う
  - ・正解ポイントと早押しポイントの合計が累計されてランキングになります

### ③ジャムボード (Jamboard)



例えば・・・「丸、三角、四角を探そう!」  
 ・教室で丸〇、三角△、四角□の形を探して各自で写真を撮り、自分のスライドに挿入する。写真の中で見つけた形に印をつけたり、スライドをかわいくアレンジしたりすることもOK。

他の先生のスライドに模様をつけたり、イラストをいれたりすることもできます。  
 もちろん作成したスライドを大型テレビで共有もできます。  
 紹介のホームページ上では神経衰弱、漢字の読み、漢字の部首クイズ、形容詞クイズなど、たくさん授業実践例が紹介されていました。

1人1つのスライドを使って  
 作業ができ、  
 共同で作業したり  
 全員で共有したり...  
 することができるツール!

## 手作り教材教具の紹介

【課題】井手崇人 上原有貴 角谷佳則 川口守 近藤忠昭 篠原愛 鈴木康太 大道りか 高田章子 山川千雅子

### 牛乳パックで作るパクパクお面

材料：厚紙。色画用紙。(型紙あり) 牛乳パックを開いた三面。補強に 1.5 cm幅を 2 本。  
両面テープ。液状のり



小学部 1 年生「生活」導入でお面が登場すると、  
注視する児童たち。  
「かして。」と要求を受けて、児童に手渡すとパ  
クパクと動かして模倣することができた。

カエルのお面が・・・  
獅子舞の顔を思い出させてしまい、  
怖がる様子も見られた。



### 2分割の絵合わせ課題

材料：百円ショップで販売している (ABCカード・かずカード・えあわせカード・  
あいうえおカード) カラーボード。両面テープ。台紙の枠に、アイスクリームの棒。工作  
用接着剤



作る時のポイント：カードは、両面使用できるので、必要であれば 2 セット。カードに厚みを  
つけるために

カラーボードを使う。カラーボードに両面テープを貼りカードを並べる。カッターでカットする。  
台紙には、白がおすすめ。枠の色も青がはっきりとする。



### 牛乳パックで作る箱



一つの箱の大きさは、牛乳パックの飲み口部分をカットして両面テープを使い 2 本を合体する。  
色画用紙の端と端にも両面テープを貼り、牛乳パックを包むように貼り合わせる。底の部分は液  
状のりでつける。画用紙の大きさは、44.8×28。箱積み。箱ならべ。箱くずし。ドミノたおし。  
ゲームで活用。

※キャリア教育6観点【コミュニケーション力 (人間関係・社会関係調整力)】の教材として使  
える。

## 高等部における数学的活動について

算数・数学教科研所属 大江柊人 鹿嶋さほり 大西弘朗

1. 概要		
高等部における数学的活動について、目標・ねらいとキャリアの観点を踏まえながら、教材の使い方やルール、生徒の様子などを紹介する。		
2. 生徒の実態		
数を数えることができる。おはじきなどを使って加法減法の計算ができれば、さらにゲームは盛り上がる。		
3. 目標・ねらいとキャリアの観点		
<p>〈目標・ねらい〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールの遵守。【ル - ④】</li> <li>・クラスで一つの活動に取り組む。【協 - ①】</li> <li>・計算ができることの楽しさを味わう。【ル - ⑩】</li> </ul> <p>〈キャリアの観点〉</p> <p>【協 - ①】 集団に参加できる。【ル - ④】 順番を守ることができる。【ル - ⑩】 計算することができる。</p>		
4. 教材の使い方とルール		
<p>(1) 生徒二人がそれぞれサイコロを転がす。</p> <p>(2) サイコロの目の差の計算を、大サイコロを転がした方が行う。</p> <p>(3) 目の大きい方に小さい方から差分のカードを渡す。同じ目が出た場合その目分のカードを両者から引きも一度サイコロを振る。【ル - ⑩】</p> <p>(4) 小サイコロを持っている生徒が大サイコロに持ち替え、小サイコロを別の生徒に渡す。          (わかりやすかつ平等に大サイコロを転がしてもらうための配慮でありどちらを投げててもルール上問題はない)【ル - ④】</p> <p>(5) 1～4を繰り返す。</p> <p>(6) カードがなくなった生徒はサイコロを1回転がし、その時一番多くカードを持っている生徒からその目の分のカードを引く(引かれたカードは回収する)。【ル - ⑩】</p> <p>(7) 残った生徒が大サイコロを持ち、小サイコロを誰か指名する。【協 - ①】</p> <p>(8) さらにカードがなくなった生徒が出た場合、前になくなった生徒もサイコロを振り、一番カードが多い生徒から引く。最後まで残っていた生徒の勝利。【ル - ④】【ル - ⑩】</p> <p>※ (8)は脱落した生徒が多くなるとすぐなくなってしまいますので、その場のカードの残り枚数を見て行なうかどうか調整する。</p>		
5. 生徒の様子		
サイコロが大きいほど楽しくなるが、回を重ねるごとに、より勝ちたいという気持ちが強くなってくる。出た目の差やカードの枚数を計算し、自ら導き出すことに楽しさを覚えているようである。		

高等部 2 年生におけるピア・サポートの実践について

社会科教科研・森本 晃介

生徒の実態

研究実践の対象は、高等部 2 年生、職業クラスの 9 名である。「就労」を目指す生徒たちであるが、自分の考えを他者に伝えることは苦手である。また、対人関係に関する力にも課題がある。

授業者の考え

生徒が、対人関係に関する力を、主体的に身につけるために、他者とのかかわりを実践的かつ継続的に行い、「就労」に必要なコミュニケーション力を養っていききたい。

⇒ そこで、ピア・サポートの実践を行うことにした。

ピア・サポートとは

ピア・サポートとは、学生たちの対人関係能力や自己表現能力等、社会に生きる力がきわめて不足している現状を改善するための学校教育活動の一環として、教職員の指導・援助のもとに、学生たち相互の人間関係を豊かにするための学習の場を各学校の実態に応じて設定し、そこで得た知識やスキルをもとに、仲間を思いやり、支える実践活動を、ピア・サポートと呼ぶ。

(日本ピア・サポート学会より)

実践

**目標**…生徒が、コミュニケーション能力を向上させ、前向きに他者とかかわることができるようになる。

1 学期

自己紹介（2 人組）→ 他己紹介（4 人組・5 人組）  
「ことば」を使わずにコミュニケーションをとろう！（ごちゃまぜビンゴ、パスデー・チェーン）  
輪になって語ろう！（最近楽しかったこと、最近イライラしたこと、あなたはどっち？）

1 学期の結果

生徒は、他者とコミュニケーションをとる意識は高まった。しかし、コミュニケーションの質や普段の行動の質の向上にはつながらなかった。

○生徒が、行動の質を高めると同時に、他者へのかかわり方を具体的に学ぶことができる実践を行うべき。

外部機関（大学など）との連携を図り、研究実践を行うことにした。

2 学期

目標（生徒の努力目標）を、話し合い活動を通して決めた（4 人組・5 人組）← 行動の指標を共有  
聞き方名人になろう！話し方聞き方名人になろう！（さいころトーク、ほめほめキャッチボール、話し方聞き方レクチャー）  
お願いの仕方を学ぼう！（上司にお願いをするとき）⇔気持ちよく断ろう！（お願いされたときどうしても断らないといけない）  
**ポジティブカード活動（仲間のいいところを見つける）← ポジティブ行動支援の考えに基づく**

2 学期の結果

生徒間の理解が深まり、他者への気遣いが出てきた。それに伴い、生徒間の会話が増え、授業の雰囲気も明るくなった。逆に、生徒の中には、「他者との対立」などへの不安があるようである。

○ 3 学期は、以上を踏まえ、ピア・メディエーション（生徒同士によるトラブル解決）を行う計画をしている。

特別支援学校高等部職業科における職業教育に関する研究

—職業生活能力客観的評価尺度の開発—

高等部3年 教諭 松本 政幸

実践研究  
の流れ

STEP1: 尺度開発 (質的研究)

分析

STEP2: 授業実践

分析

STEP3: 授業分析 (量的研究)

今回の研究  
(キャリア教育6観点全般に該当)

I 背景

内閣府(2002)「雇用・就業、障害者の自立・社会参加のための条件の整備を図る」  
 文部科学省(2009)「自立と社会参加に向け職業教育や進路指導の充実を図る」  
 文部科学省(2011)「高等部において、キャリア教育・職業教育が重要」  
 文部科学省(2019)「就労を支援し職業的な自立を果たすことが重要」  
 ⇒ 「就職者割合は約25%」(◎本校：一桁台)  
 文部科学省(2010)「知的障害の在籍者数近年増加の傾向」  
 ⇒ 厚生労働省(2017)「就職件数が拡大」

・『挨拶等の資質の育成』  
 ・『職業教育に時間と労力』

II 問題と目的

中央教育審議会(2010)  
 「学習評価の重要性及び評価基準・評価方法の研究開発の推進」

・授業成果を評価する妥当性の検証された尺度はほとんどない。  
 ・長期的に働くための資質と客観的に評価できる尺度開発が目的。

III 方法

1. 調査対象：一般企業、特例子会社、事業所の実習担当者
2. 調査内容：インタビュー形式(就労に必要な項目)
3. 調査手続き及び倫理的配慮：口頭説明
4. 分析方法：テキストマイニングとKJ法 (質的研究)

### IV 結果

(KJ法の結果を中心に記す)

#### 1 KJ法の結果

##### (1) 得られたカテゴリー

133個のラベルが抽出⇒ 53個の小カテゴリー ⇒ 29個の中カテゴリー

大カテゴリー①【意欲】②【態度】③【コミュニケーション】④【作業性】⑤【協調性】⑥【生き方】⑦【職場理解】⑧【権利意識】⑨【精神的安定】

### (2) カテゴリー間の関係

図 KJ法の結果（大カテゴリー間の関連）

### 2 評価尺度の提案

テキストマイニングとKJ法による分析（質的研究）及び先行研究との比較検討。

☆『職業生活能力客観的評価尺度を提案』

### V 考察

#### 1 KJ法

##### (1) 抽出されたカテゴリー

新たな観点  
4個  
(先行研究を包含)

①【生き方】  
②【職場理解】  
③【権利意識】  
④【精神的安定】

##### (2) カテゴリー間の関係

- 9つの観点は四層構造に構造化。
- 評価項目間の関連や影響過程の仮説を提案。
- 横断的に整理し図解化。
- 就労に基づいた視点での検討要。

### 2 評価尺度の意義

- 職業教育に関する評価項目を整理し教育効果を把握。
- ニーズに応える尺度開発。
- 就労先の現場の生の声を反映。
- 先行研究にはない新たな視点を盛り込めた（価値有）。

### 3 課題と今後の取り組み

雇用タイプ別に分析できていない。⇒ 特徴が明らかでない。

開発した評価尺度の妥当性を授業実践にて検証

『分析（量的研究：変容の数値化）：授業（撮影）を統計解析ソフトで分析し更なる授業の質を向上させる！！』